

津山市議会議員

# 政岡あきひろの議会報告

まさおか

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。

## ごあいさつ

津山市民の皆様、いつもお世話になっております。政岡あきひろの議会報告第10号が出来上がりましたので、ご覧いただきますようお願いいたします。

また、常々お話ししておりますがこの議会報告は、毎回議会が終了する度に作成しています。さらに私は、最初からこの10回目の議会まで、二元代表制の一方の責務（執行部をチェックし市民の声を反映させる）を果たすため、是々非々の立場で真摯に取り組んできた積りです。

そして、津山市議会も任期が後半になり議会構成が変わる中、志を共有できる中島・小椋議員と会派「未来」を結成することになりました。今は少数ですが、正統派の保守系議員の集団として活動していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。



## 平成二十九年九月議会の 主な質問内容

冒頭、九州北部をはじめ各地で発生した豪雨災害へ触れ、我々の生活スタイルの見直しを提言しました。一方で、北朝鮮によるミサイル発射・核実験など緊迫する社会情勢にも言及し、自衛隊の存在意義と、多様な財源確保の視点からも、本市においても理解と支援が必要であることを述べました。

そして、この九月議会では

**(1) 市長の施政方針について**  
**(2) 財政運営に関する事項**

① 子や孫の時代を見据えた財政計画の方向性  
② 財源の確保と運用

という発言通告の下に一般質問を行いました。

今回は、概ね津山市の財政に関するること、財源確保や運用に関して市長の考え方を質す質問でした。

まず、登壇において地方自治体の財源として大きなウエイトを占める地方交付税交付金の交付額決定の仕組みと、国庫補助金等の交付額決定に関する流れについて質問しました。これは、このような国や上級官庁などから獲得してくる財源に関しては、各自治体によってばらつきがあり、各々の自治体による取り組みによって差が出るのではないかという意味の質問です。

また、財政に関しては津山市の財政状況と、そのことに対する当局の認識及び今後の見通しと方策について質問しました。さらには、それを統括する市長の考え方と、取り組み姿勢を質しました。

そのうえで、多様な角度から財源を確保するために、中央官庁等とのパイプ作りの重要性を提唱し、そのことに対する取り組みや方向性を質していききました。

一方、市長には政治姿勢に関する質問もしました。今日、国会議員をはじめとする地方議員や、自治体首長などに関する不祥事や倫理観を欠いた行動などが、度々マスコミなどで報じられる中、公人の代表ともいえる市長の、立ち居振る舞いのあり方や姿勢について質問しました。

## 答弁内容と 再質問による議論

その後、それらの質問に対する答弁をもとに、一問一答方式により内容を掘り下げる質問をしていきました。

財政部から出された、地方交付税に関する答弁は、交付税は制度上国による一定の合理的な基準により算定されるものなので、地方自治体の取り組み、とりわけ「営業努力」というようなものに左右されない、というものでした。

一方、人口増減率や出生率、農業産出額や製造品出荷額など、地方自治体の取り組みの成果により、交付税額算定の根拠となる基準財政需要額の割り増しがあるという内容も含まれていました。

▲裏面に続く

つまり、そのことは自治体による「経営努力」により、それらの数値的な改善が図られれば、交付税額算定の根拠が有利になるという意味になります。私は、自治体の取り組みが影響することを指摘し、一層の努力を求めました。

続いて、そもそも自治体の取り組みより交付額に差異が出るものとして国庫補助金があり、本市では地方創生関係の補助金として「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みを推進しており、国からの補助金を積極的に活用している、という答弁がありました。

私は、そのような取り組みに対する、今後のさらなる尽力を全ての関係部署に対して求めました。そのうえで、それを束ねる立場である、市長の姿勢にも言及しました。

私が議員となり、これまでに得た印象から、そのような補助金を獲得するための資料作りなど実務的な作業に関しては、津山市職員の資質や能力は高く、意識や姿勢も評価できると考えていました。

やはり、彼らがいくら良いレポートを書いて、それを読んで貰う相手との良好な関係が構築されていなければ、十分な実効が得られないのだと思います。そのような視点からの質問でした。

これに対して、市長からは今年度は自らあらゆるところへ赴き、直接要望活動を行った、という答弁をいただきました。しかし、どの自治体も生き残りをかけた必死の取り組みをしている時、トップが直接赴くのはむしろ当たり前前のことです。さら

なる積極的な取り組みや、内容の充実を求めることとなりました。

一方で、今回の質問における唯一の成果ともいえる答弁がありました。それは、中央省庁とのパイプ作りやその強化策として、来年度から職員を派遣する計画があるというものでした。この点については、前向きなもので評価できるものでした。私は、さらに中央官庁からの派遣についても、強く要望しておきました。

それから質問の最後として、公人としての市長の振る舞いを質しました。例えば私は、日頃宮地市長とは葬儀の席でお目にかかる機会が多いと感じておりました。さらに、そのような場面においても市長は、支援者と握手をして回る場面が良くみられました。私は、そのような姿勢に強い違和感を抱いておりました。

そこで、以前出雲市で市長をされた岩国哲人氏の例を引き、そのような姿勢を質しました。かつて出雲市民の強い要望に応じて立候補し、市長となられた岩国氏は、就任の際、冠婚葬祭には顔を出さないことを明言され、そのことを実行されました。

そのことが、公平性と透明性を確保し、何より経費削減にもつながり、その分本来の仕事がしたいと語られていました。私は、そのような姿勢こそ見習うべきではないかと質しました。

しかし宮地市長は、どこをどのよう曲解したらそのようなことがいえるのか解りませんが「自分が、公費で香典を支出したかのような言いがかりだ」と反問権を行使されようとなりました。

これにより議事が止まり、議会運営委員会が開かれたうえで、議長の裁定により、私の発言にそのような文言は一切なく、したがって市長の反問権を却下するということになりました。

しかしながら、このことにより本来いたただくはずの市長の答弁を残して、私の質問は打ち切りとなりました。まことに、残念な結果でしたが、議会中継をご覧になった多くの皆様から、応援と励ましを寄せていただきました。

実は、このような鋭く問題を指摘する質問に関しては、以前は無党派で孤軍奮闘という感じでした。しかし、今回は会派「未来」の仲間により、市長の施政方針や政治姿勢に対して、共通した問題提起をすることができたと感じています。

## おわりに

私は、市民の皆様が抱えている閉塞感を明確な言葉にし、未来の子ども達への責任を果たすための施策実施にむけた、真摯な議論がしたいと考えています。

まだまだ、十分とはいえませんが、これからも筋を通しながら、精一杯取り組んで行こうと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願ひします。

